

御触書寛保集成編年索引(上)

小林 年 春

はじめに

本索引は『御触書寛保集成』(岩波書店刊)所収の各触書を年代順に配列したものである。作成にあたっては以下の方針によった。

一 各触書を一つの単位として配列する。

二 各触書の配列は次のようにして決定した。

ア 触書の出された年月を西暦に換算する。

イ 換算にあたっては各触書をその月の一日に出されたものとみなす。

ウ 同じ月に出された触書は通し番号の順に配列する。

三 字体はできるだけ活字本の字体による。

四 やむを得ない場合は現行の字体による。

五 作成にあたって、次の図書を用いる。

『御触書寛保集成』(高柳眞三、石井良助編 一九七六年 岩波書店刊)

『日本暦月原典』初版(内田正男編著 一九七五年 雄山閣出版刊)

六 各触書には各々の書き出し二十字を記した。これは内容を判断しやすくするためである。但し、触書によつては最初の二十字では内容が判断できないものがある。この場合には内容

が判断できる最初の二十字を記した。

七 各項目の配列は次のようになってゐる。

通し番号 見出し年月 内容(二十字) 所収部

なお所収部については最初の二字ですべて判別がつくので、最初の二字のみを採り以下は省略した。

今回発表するのは「御触書寛保集成編年索引」の前半部分である。後半部分については次回に発表したい。また、現在『御触書集成』のすべてについての索引を作成中である。これらについても順次発表して行きたいと考えている。

本索引は『御触書集成』をより使いやすくする目的で作成された。触書が必要にしたがつて調べることがはたれも行ふことであり、その結果を年代順にならべておくことも行つてゐる。しかし『御触書集成』所収の触書全部を年代順にならべた索引は今まで知られていない。おそらく本索引が最初ではないかと思われる。

触書の利用は歴史学に留まらず、芸能史、文学史、民俗史などの多くの分野に亘つてゐる。この索引が多くの人々によつて活用されることを望んでゐる。

